



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

狭心症

心臓は絶え間なく働いているため、動き続けるためのエネルギーが必要で、そのため、冠動脈という心臓を取り囲んでいる血管から血液を通して酸素などのエネルギーを生み出すものが供給されています。その冠動脈が何らかの原因で細くなり血流が制限されると、十分なエネルギーが得られず心臓の働きが低下し、胸部の痛みや不快感といった症状が現れます。これが狭心症発作です。

冠動脈が細くなる原因のひとつが、冠動脈にコレステロールが付着して起こる動脈硬化です。動脈硬化によって血液の通り道がある程度狭められると、運動や緊張などで心臓が激しく働き、より多くのエネルギーを必要とするときに狭心症発作は起こります。さらに動脈硬化が進んで、血液の通り道がさらに狭められると、エネルギーをあまり多く必要としない安静時にも起こるようになります。こ

のため狭心症発作が起こったら、なるべく早い段階で医療機関を受診して対応することが重要です。

動脈硬化以外でも、冠動脈がけいれんを起こして血流が低下し狭心症発作を起こすことがあります。この場合は、夜間から早朝にかけて起こることが多いようです。

狭心症の治療は動脈硬化を進行させないことが重要で、高血圧や糖尿病、脂質異常症、肥満などの生活習慣病の改善が必要です。そのうえで、狭心症発作が起こらないように、ベータ遮断薬、硝酸薬、カルシウム拮抗薬などの薬が使われています。

ベータ遮断薬は、交感神経の刺激が心臓の筋肉に伝わるのを防いで、心拍数を減らし、心臓から全身に送り出させる血液の量を抑えて血圧を下げます。それにより心臓の負担が減り、心臓に必要なエネルギー量も減るので、狭心症発作の予防になります。

硝酸薬は、冠動脈を広げて心臓に

供給できる血液量を増やします。また、硝酸薬のひとつであるニトログリセリンは即効性があり、狭心症発作が起こったときにはニトログリセリンの舌下錠やスプレーを使うと、すぐに効いてきて発作の症状が軽減できます。ただ、冠動脈以外の血管も広げてしまい、血圧が低下してふらつくことがあるので、転倒などの危険回避のために、座った状態などで使用することが必要です。

カルシウム拮抗薬は、硝酸薬と同じように冠動脈を広げる作用があります。

狭心症の予防には生活習慣に気を付けることが重要です。塩分、糖分、脂肪分のとりすぎに注意をし、適度な運動を心がけ、喫煙者であれば禁煙をし、ストレスを避けて規則正しい生活を送ることで、ある程度は防ぐことができると考えられます。

(北区) 薬局エビラファーマシー

松本 博志